

宮沢賢治と矢巾町

「銀河鉄道の夜」の舞台は南昌山

第11回

宮沢賢治と矢巾町のかかわりを紹介するこのコーナー。今回は、矢巾町出身の親友である藤原健次郎の生家で発見された賢治自筆のノートについてご紹介します（解説は「矢巾町宮沢賢治を語る会」の松本隆会長によるものです）。

① 賢治のノート発見

平成13年、「矢巾町宮沢賢治を語る会」では、健次郎の生家の関係者である藤原盛子さんらの協力を得て、賢治が病床にある健次郎に宛てた2通目の手紙（手紙については平成28年2月号の第6回を参照）の捜索を行いました。

残念ながら賢治の手紙を発見することはできませんでしたが、健次郎の盛岡中学時代の通信簿や綴り方帳（作文帳）とともに、健次郎と賢治の二人の名前が記された教科書や、賢治が健次郎の家に泊まった際に置



発見された賢治自筆のノート

いていったと思われるノートが発見されました。

同会では、この発見を宮沢賢治学会や研究機関に報告するとともに、筆跡鑑定を行った結果、賢治の自筆であることが認められました。また、ノートに記録された学習内容が盛岡中学1年生の内容と一致することが確認されました。

さらにノートには、賢治が書いた多数の落書きがあり、賢治の心境や、当時の社会や政治事件を示すものもあり非常に貴重な資料となっています。

② 「未来の賢治殿」

ノートに2つの絵と「未来の賢治殿」と添え書きされたページがあります（写真①）。上の絵は、部屋でピアノがオルガンを弾く人物（黒く塗りつぶされた部分をよく見ると、鍵盤に手を伸ばす人の姿が見えます）が描かれており、下には胸に熱



【写真①】「未来の賢治殿」と書かれたページ

章を付け、髪を分けている人物が描かれています。賢治は将来の夢としての音楽家と、兵隊になつて出世をする姿を想像して描いたと考えられます。

③ 質屋



【写真②】ひげを生やした人物が火鉢の前に坐っている絵

写真②のページには、火鉢とテーブルがあり、座布団にひげを生やした人物が座っています。また、テーブルには杯が伏せてあり、脇に「召酒」と記されています。

この絵は、賢治が花巻の実家（質屋）で客を待つ父の姿を描いたと考えられます。寄宿舎の学生のほとんどが土・日に実家に帰る中、賢治の父は、賢治に帰宅せず寄宿舎で勉強するように話していたことから、父に不満と厳しさを感じていたとともに、父からの指示に従わず健次郎の家に遊びに来ていることで、うしろめたさも感じていたと考えられます。

④ 警察官と犯罪者



【写真③】警察官と犯罪者が描かれたページ
左下には「彼(被)告」の文字もあります

写真③のページには、警察官が犯罪者と思われる人物をひもで縛って歩かせている姿が描かれています。

賢治が盛岡中学の1年生だった1908年（明治41年）には、「赤旗事件」が起こり、社会主義者の摘発が行われていました。新聞にも大きく取り上げられ、賢治たち学生の間でも話題になっていたと考えられます。

平成27年10月号からお送りした「宮沢賢治と矢巾町」銀河鉄道の夜」の舞台は南昌山」は、今回が最終回となります。

このコーナーで紹介した内容を含み、宮沢賢治と南昌山、藤原健次郎に関するパネルや資料展を、やはり1く2階で開催しています。皆さ